

倫理学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
倫理学特論Ⅰ	近世合理主義入門：ライプニッツ『形而上学叙説』を読む	2	村山 達也	1学期	金	4	1	倫理学特論Ⅰ
倫理学特論Ⅱ	『基礎づけ』から読み解くカントの倫理思想	2	池田 準	2学期	火	5	2	倫理学特論Ⅱ
倫理学特論Ⅲ	マルブランシュの思想	2	木田 直人	集中(1学期)			3	倫理学特論Ⅲ
倫理学総合演習Ⅰ	発表と討論	2	戸島 貴代志、村山 達也	1学期	月	5	4	倫理学研究演習Ⅰ
倫理学総合演習Ⅱ	発表と討論	2	戸島 貴代志、村山 達也	2学期	月	5	5	倫理学研究演習Ⅱ
倫理学研究演習Ⅰ	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	1学期	水	4	6	倫理学研究演習Ⅰ
倫理学研究演習Ⅱ	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	集中(2学期)			7	倫理学研究演習Ⅱ
倫理学研究演習Ⅲ	ライプニッツ講読	2	村山 達也	1学期	水	2	9	倫理学研究演習Ⅲ
倫理学研究演習Ⅳ	ベルクソン講読	2	村山 達也	2学期	水	2	10	倫理学研究演習Ⅳ
倫理学研究演習Ⅴ	幸福をめぐる諸問題	2	村山 達也	1学期	金	2	11	倫理学研究演習Ⅴ
倫理学研究演習Ⅵ	道徳行為をめぐる諸問題	2	村山 達也	2学期	金	2	12	倫理学研究演習Ⅵ

科目名：倫理学特論Ⅰ／ Ethics (Advanced Lecture Ⅰ)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM15403， **科目ナンバリング：**LIH-PHI619J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 倫理学特論Ⅰ】

1. 授業題目：

近世合理主義入門：ライプニッツ『形而上学叙説』を読む

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Early Modern Rationalism: Leibniz, Discourse on Metaphysics

3. 授業の目的と概要：

ライプニッツ『形而上学叙説』の読解をつうじて、十七世紀の近世合理主義の概説を行ないます。あわせて、哲学・倫理学の古典を研究する際に気を付けるべきことを学びます。

ライプニッツ（一六四六―一七一六）は近世合理主義の代表的人物であり、彼がその複雑精緻な形而上学——神、世界、魂についての統一的説明——をはじめてまとめたかたちで提示したのが『形而上学序説』（一六八五頃）です。この講義では、多くの予備知識なしには理解が極めて困難なこの本について、第一節から順を追って丁寧に解説していきます。また、ライプニッツの論敵であるデカルトやスピノザ、マルブランシュ、アルノーたちの思想についても、必要な範囲で適宜補足し、理解を深めることを目指します。

4. 学習の到達目標：

- (1) 近世合理主義の基礎知識を学ぶ。
- (2) ライプニッツがどのような問題に取り組み、どのような解決を提示したのかを学ぶ。
- (3) 哲学・倫理学の古典に独力で取り組む力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：近世合理主義とライプニッツの紹介

第二回：ライプニッツによる神の存在証明（「理性に基づく自然と恩寵の原理」より）

第三回：『形而上学序説』第一―二節（神の完全性）

第四回：『形而上学序説』第三―七節（神と害悪）

第五回：質問への回答

第六回：『形而上学序説』第八―一六節（実体論の概要）

第七回：『形而上学序説』第八節（「個体である実体」とは何か）

第八回：『形而上学序説』第八、二三、二四節（個体の定義）

第九回：『形而上学序説』第八節（個体と真理）

第一〇回：質問への回答

第十一回：『形而上学序説』第九、一三節（個体の自由と様相）

第十二回：『形而上学序説』第一四、三三、一五節（心身問題）

第十三回：『形而上学序説』第二六節（永遠真理と認識）

第十四回：『形而上学序説』第三〇―三七節（自由・害悪・至福）

第十五回：質問への回答、ならびに全体のまとめ

各回とも該当箇所は事前に読んでいることを前提して解説します。また、アンケートをつうじて質問を積極的に募り、できるだけ回答することを心がけます。そのため、以上の予定はあくまで理想的に進んだ場合です。

6. 成績評価方法：

平常点（四〇パーセント）＋レポート（六〇パーセント）

7. 教科書および参考書：

以下のものが基本テキストです（必要なものはすべてプリントで配布します）。

- ・ライプニッツ『モナドロジー 形而上学序説』（中公クラシックス）。
- ・Leibniz, Discours de métaphysique et Correspondance avec Arnauld, introduction, texte et commentaire par Georges Le Roy, J. Vrin, 1957.

次の二冊は予備知識なしに読めるので参考書としてお勧めです。その他の参考書は適宜紹介します。

- ・スチュアート『宮廷人と異端者』（書肆心水）
- ・マンフォード『哲学がわかる 形而上学』（岩波書店）

8. 授業時間外学習：

各回とも、指定のテキストを事前に読み、どこまでは理解できたか、どこがどう難しかったかを説明できるようにしておいてください。

9. その他：なし

特段の予備知識は不要です。なお、水曜二限には、この講義で扱うテキストをフランス語で読む（そしてときどきマンフォード『哲学がわかる 形而上学』を日本語で読む）演習を開講します。また、七月にはマルブランシュについての集中講義が開講されます。いずれも単独で履修し、理解することは可能ですが、併せて履修されると相乗効果で理解が大いに深まるでしょう。

科目名：倫理学特論Ⅱ／ Ethics (Advanced Lecture Ⅱ)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：池田 準（非常勤講師）

講義コード：LM22506， **科目ナンバリング：**LIH-PHI620J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 倫理学特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

『基礎づけ』から読み解くカントの倫理思想

2. Course Title (授業題目)：

Kantian Ethics in Groundwork for the Metaphysics of Morals

3. 授業の目的と概要：

本講義では、『人倫の形而上学（道徳形而上学）の基礎づけ』（1785）を基本のテキストとして、カントが取り組んだ倫理的課題とその論証内容を解き明かしていきます。各章の表題にある通り、この著作は道徳に関わる常識的な道徳認識から道徳哲学、そして純粹実践理性批判へと段階を追って読者の認識水準を高めていくように構成されています。これに即したかたちで「道徳性の最上の原理とは何か」というカントが提示した課題に対する理解を深めていくことが本講義の目的になります。

『基礎づけ』にはカントの倫理思想を理解する上で欠かせない基本概念（義務、格率、定言命法、道徳法則、自律、意志の自由など）が登場しますが、それらの概念を体系的に把握するために適宜カントの他の著作（『純粹理性批判』『実践理性批判』『人倫の形而上学』など）やカントに影響を与えた哲学者たち（モラル・センス学派やルソー、ライプニッツなど）の思想についても関連する部分に焦点を絞って紹介します。

4. 学習の到達目標：

- (1) カントの倫理思想の基本概念が理解できるようになる。
- (2) カントが提起した問い「道徳性の最上の原理とは何か」を自分自身の問いとして引き受け、探究し直す力を身につける。
- (3) 自らの道徳判断を根拠と共に提示し、倫理問題に関する生産的な議論ができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. カントの問題提起とその位置づけ（『基礎づけ』序言）
2. 意志と傾向性（『基礎づけ』第一章）
3. 義務に適合する行為と義務に基づく行為（『基礎づけ』第一章）
4. 格率と法則（『基礎づけ』第一章）
5. なぜ博愛主義者は道徳的ではないのか（質疑応答と序言・第一章の復習）
6. 道徳性と理性（『基礎づけ』第二章）
7. 仮言命法（『基礎づけ』第二章）
8. 定言命法(1) 普遍性（『基礎づけ』第二章）
9. 定言命法(2) 目的と尊厳（『基礎づけ』第二章）
10. 定言命法(3) 自律（『基礎づけ』第二章）
11. なぜこの「私」が普遍的な規範に従わなければならないのか（質疑応答と第二章の復習）
12. 意志の自由と道徳性（『基礎づけ』第三章）
13. 定言命法の正当化（『基礎づけ』第三章）
14. 道徳的探究の限界（『基礎づけ』第三章）
15. 道徳性の最上の原理とは何か（質疑応答と全体のまとめ）

6. 成績評価方法：

期末レポート(60%)、出席と質問票の提出(40%)

授業では毎回疑問点や質問を書いて提出してもらいます。期末レポートでは知識の獲得と理解の深化、質問票では問題意識を持って授業に取り組む姿勢を評価の対象とします。

7. 教科書および参考書：

使用するテキスト・参考資料は必要に応じてプリントで配布します（ドイツ語・日本語併用）。基本的には以下の文献に即して授業を進めていきます。

Immanuel Kant, Grundlegung zur Metaphysik der Sitten, Philosophische Bibliothek Bd.519, hrsg. von B. Kraft und D. Schönecker, Felix Meiner Verlag, 1999.

（日本語訳・英訳は複数ありますので初回授業で紹介します）

8. 授業時間外学習：

各回の授業で参照する箇所は事前に指示しますので、あらかじめテキストの該当箇所を熟読の上、授業に参加して下さい。

9. その他：なし

科目名：倫理学特論Ⅲ／ Ethics (Advanced Lecture III)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1学期)， **単位数：**2

担当教員：木田 直人（非常勤講師）

講義コード：LM98827， **科目ナンバリング：**LIH-PHI621J， **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 倫理学特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

マルブランシュの思想

2. Course Title (授業題目)：

Of the thought of Malebranche

3. 授業の目的と概要：

マルブランシュの哲学の概要を明らかにし、哲学史における彼の思想的意義を考察する。おもに機会原因論、「すべてのものを神のうちに見る」理説、叡智的延長の概念を丹念に解説する。

4. 学習の到達目標：

履修者が17世紀における思想状況を理解し、また、マルブランシュの思想の哲学史における位置を、認識論、倫理学の両分野において理解することを到達目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

マルブランシュの認識論と倫理学について、なしうるかぎりテキストに基づきつつ、講義する。以下が進度予定（状況に応じて変更の可能性あり）。

1. はじめに
2. 機会原因論（1）——概要
3. 機会原因論（2）——五つの一般法則について
4. 運動伝達の法則と機会原因
5. 叡智的延長という概念
6. 心身結合の法則と機会原因
7. 感覚の位置と自然的判断
8. 魂と普遍理性との結合の法則と機会原因
9. 精神の注意について
10. 二種の観念と倫理学
11. 三位一体の神と似像としての人間
12. 意志と自由
13. 恩寵概念と精神の自由
14. キエティズムとの自己愛論争
15. おわりに

6. 成績評価方法：

レポートによる。

7. 教科書および参考書：

◆教科書（引用元。講義で扱う箇所はプリントで日本語訳を配布する。）

Malebranche, Nicolas de, Œuvres complètes de Malebranche sous la direction de A. Robinet, Paris, Vrin, 20 tomes, 1958-1968.

◆参考書

『形而上学と宗教についての対話』井上龍介訳、晃洋書房、2005年。

『ものはなぜ見えるのか——マルブランシュの自然的判断理論』木田直人、中公新書、2009年。

『マルブランシュ——認識をめぐる争いと光の形而上学』依田義右、ぶねうま舎、2014年。

8. 授業時間外学習：

授業で扱った引用元を熟読すること。

9. その他：なし

科目名：倫理学総合演習Ⅰ／ Ethics (Integration SeminarⅠ)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志、村山 達也（教授、准教授）

講義コード：LM11504， 科目ナンバリング：LIH-PHI622J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 倫理学研究演習Ⅰ 】

1. 授業題目：

発表と討論

2. Course Title (授業題目)：

Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：

参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. 学習の到達目標：

発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

6. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

発表者の予稿を精読し、質問に備える。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学総合演習Ⅱ／ Ethics (Integration Seminar II)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志、村山 達也（教授、准教授）

講義コード：LM21504， 科目ナンバリング：LIH-PHI623J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 倫理学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

発表と討論

2. Course Title (授業題目)：

Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：

参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. 学習の到達目標：

発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

6. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

発表者の予稿を精読し、質問に備える。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅰ／Ethics (Advanced SeminarⅠ)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志（教授）

講義コード：LM13406， 科目ナンバリング：LIH-PHI624J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 倫理学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

現象学と存在論

2. Course Title（授業題目）：

Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第 2 外国語としていない学生にも配慮する。

4. 学習の到達目標：

ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「現象学」と「存在論」 1
2. 「現象学」と「存在論」 2
3. 「現象学」と「存在論」 3
4. 「現象学」と「存在論」 4
5. 「現象学」と「存在論」 5
6. 「現象学」と「存在論」 6
7. 「現象学」と「存在論」 7
8. 「現象学」と「存在論」 8
9. 「現象学」と「存在論」 9
10. 「現象学」と「存在論」 10
11. 「現象学」と「存在論」 11
12. 「現象学」と「存在論」 12
13. 「現象学」と「存在論」 13
14. 「現象学」と「存在論」 14
15. 「現象学」と「存在論」 15

6. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅱ／ Ethics (Advanced Seminar Ⅱ)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)， 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志（教授）

講義コード：LM98828， 科目ナンバリング：LIH-PHI625J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 倫理学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：

Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 西田哲学における存在概念とその探求方法を解明する。

3) ハイデガーについてはドイツ語を第2外国語としていない学生にも配慮し、西田については『善の研究』を中心に解説する。

4. 学習の到達目標：

ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。西田哲学における「無」の概念について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「現象学」と「存在論」 1
2. 「現象学」と「存在論」 2
3. 「現象学」と「存在論」 3
4. 「現象学」と「存在論」 4
5. 「現象学」と「存在論」 5
6. 「現象学」と「存在論」 6
7. 「現象学」と「存在論」 7
8. 「現象学」と「存在論」 8
9. 「現象学」と「存在論」 9
10. 「現象学」と「存在論」 10
11. 「現象学」と「存在論」 11
12. 「現象学」と「存在論」 12
13. 「現象学」と「存在論」 13
14. 「現象学」と「存在論」 14
15. 「現象学」と「存在論」 15

6. 成績評価方法：

発表7割、出席3割。

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

9. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅲ／ Ethics (Advanced Seminar III)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM13207， 科目ナンバリング：LIH-PHI626J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 倫理学研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

ライプニッツ講読

2. Course Title (授業題目)：

Leibniz's Texts on Metaphysics

3. 授業の目的と概要：

ライプニッツの著作から、その体系を理解するうえで基本的な、かつ重要な箇所を抜粋し、フランス語で読みます。

ライプニッツを読む面白さの主要な源泉の一つは、極めて困難な問題をライプニッツがいかなる（奇抜な）概念によって解決しているかを見て取ること、また、そうして提示されるさまざまな概念がどのように（おそろしく精緻に）関係しあっているかを理解することにあります。この演習では、主に『形而上学叙説』『人間知性新論』『理性に基づく自然と恩寵の原理』から、神の存在証明を行なったり、F145「個体概念」「微小表象」「予定調和」などの重要な概念を導入・説明したりしている箇所を抜粋し、フランス語で読んでいきます。

なお、ライプニッツのテキストが扱う問題自体についての理解を深めるため、形而上学の入門書を日本語で読む回を適宜設けます（四回に一回程度）。

4. 学習の到達目標：

- (1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。
- (2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（ライプニッツについての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

6. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断する。

7. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。形而上学の入門書としては以下のものを予定しています。

・マンフォード『哲学がわかる 形而上学』（岩波書店）

8. 授業時間外学習：

各回とも訳を用意しておいてください。参加者の人数や希望に応じて、動詞活用テストや訳の事前提出を課します。

9. その他：なし

金曜四限には、ライプニッツ『形而上学叙説』を読解しつつ近世合理主義について解説する講義を開講します。また、七月にはマルブランシュについての集中講義が開講されます。いずれも単独で履修し、理解することは可能ですが、併せて履修されると相乗効果で理解が大いに深まるでしょう。

科目名：倫理学研究演習Ⅳ／ Ethics (Advanced Seminar Ⅳ)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM23206， 科目ナンバリング：LIH-PHI627J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 倫理学研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

ベルクソン講読

2. Course Title (授業題目)：

Bergson, 'The Possible and the Real'

3. 授業の目的と概要：

ベルクソンが、自由や時間、創造についての自らの考えをコンパクトに提示し、あわせて可能性概念の批判を行なった論文「可能的なものと現実的なもの」を、フランス語で読みます。

あることが現実のものとなったとき、私たちはふつう「前もって可能だったから現実化した」と考えるわけですが、ベルクソンは「そうではなく、現実化したからこそ可能になった、すなわち、現実化したそのあとで可能となったのだ」と述べます。こうしてベルクソンは、可能性の支えを必要としない創造という極めて興味深い概念を提示したわけですが、では、それを支える論拠はどのようなものなのでしょう。この演習では、フランス語でベルクソンを正確に読みつつ、彼のテキストから議論を再構成し、その妥当性を吟味することを目指します。

4. 学習の到達目標：

- (1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。
- (2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（ベルクソンについての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

6. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断する。

7. 教科書および参考書：

テキストは以下のものを用いますが、必要なものはすべてプリントで配布します。

・Henri Bergson, *La Pensée et le mouvant*, 1938 / PUF, édition critique, 2013.

8. 授業時間外学習：

各回とも訳を用意しておいてください。参加者の人数や希望に応じて、動詞活用テストや訳の事前提出を課します。

9. その他：なし

科目名：倫理学研究演習Ⅴ／ Ethics (Advanced Seminar Ⅴ)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM15206， 科目ナンバリング：LIH-PHI628J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 倫理学研究演習Ⅴ 】

1. 授業題目：

幸福をめぐる諸問題

2. Course Title（授業題目）：

Problems of Happiness

3. 授業の目的と概要：

「幸福は主観的なものにすぎないのか」「死と幸福はどのように関係しているのか（死は幸福を決定的に損なうのか、それとも死があるからこそ私たちは幸福たりうるのか）」「道徳と幸福はどう関係しているのか」といった問題、まとめて言えば、幸福（福利）をめぐる問題について、入門書や論文・書籍の一部（いずれも日本語）を読みながら考えます。

担当者によるテキスト内容の報告をもとにした議論を何回か続けたのち、五月なかば頃に四〇〇〇字程度のレポートを提出してもらい、それ以降は担当者によるレポート発表をもとに議論していきます。初回に（参加人数を勘案しながら）予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。

4. 学習の到達目標：

- (1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。
- (2) 倫理学的問題についてテキストをもとに自分なりの問題を設定し、論述できるようになる。
- (3) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：導入&テキストの配布
第二回：倫理学の入門書の読解（1）
第三回：倫理学の入門書の読解（2）
第四回：倫理学の入門書の読解（3）
第五回：倫理学の論文の読解（1）
第六回：倫理学の論文の読解（2）
第七回：倫理学の論文の読解（3）
第八回：担当者によるレポート発表と議論（以下同様）

6. 成績評価方法：

要約担当（二〇パーセント）＋レポート（六〇パーセント）＋議論への参加度（二〇パーセント）

7. 教科書および参考書：

以下は基本テキストですので購入してください。

・森村進『幸福とは何か 思考実験で学ぶ倫理学入門』（ちくまプリマー新書）
それ以外のテキストについてはすべてプリントで配布します。

8. 授業時間外学習：

演習で扱うテキストについては事前に熟読しておく必要があります。

9. その他：なし

【重要】前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである（単位は取得できていなくても構わない）ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし、履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくことになります。初回に相談してください。

科目名：倫理学研究演習Ⅵ／ Ethics (Advanced Seminar Ⅵ)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：村山 達也（准教授）

講義コード：LM25206， 科目ナンバリング：LIH-PHI629J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 倫理学研究演習Ⅵ 】

1. 授業題目：

道徳行為をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Problems of Moral Action

3. 授業の目的と概要：

「道徳行為は他の行為と何が異なるのか」「理性は私たちを道徳行為へと動機づけうるか」「道徳行為への動機づけにおいて感情はどのような役割を果たしているのか」といった問題、まとめて言えば、道徳行為をめぐる問題について、古典的テキストと現代の入門書を読みながら考えます。

担当者によるテキストの内容報告をもとにした議論を何回か続けたのち、十一月なかば頃に四〇〇〇字程度のレポートを提出してもらい、それ以降は担当者によるレポート発表をもとに議論していきます。初回に（参加人数を勘案しながら）予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。

4. 学習の到達目標：

- (1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。
- (2) 倫理学的問題についてテキストをもとに自分なりの問題を設定し、論述できるようになる。
- (3) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：導入&テキストの配布
- 第二回：倫理学の古典の読解（1）
- 第三回：倫理学の古典の読解（2）
- 第四回：倫理学の古典の読解（3）
- 第五回：倫理学の論文の読解（1）
- 第六回：倫理学の論文の読解（2）
- 第七回：倫理学の論文の読解（3）
- 第八回：担当者によるレポート発表と議論（以下同様）

6. 成績評価方法：

要約担当（二〇パーセント）＋レポート（六〇パーセント）＋議論への参加度（二〇パーセント）

7. 教科書および参考書：

以下のものは購入してください。

- ・ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉 I』（森口美都男訳、中公クラシックス）
- その他のテキストはプリントを配布します。以下のものを主要テキストとする予定です。
- ・ハーストハウス『徳倫理学について』（知泉書館）

8. 授業時間外学習：

演習で扱うテキストについては事前に熟読しておく必要があります。

9. その他：なし

【重要】前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである（単位は取得できていなくても構わない）ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくことになります。初回に相談してください。